

確かな学力の育成

～「楽しい」「できる」「わかる」「力がついている」を実感できる授業実践～

I 研究の内容

- 1 児童の実態に即した授業構想と実践
 - ・全国学力学習状況調査等の結果分析
 - ・知識及び技能の活用を図る学習活動…算数科における問題解決的な学習（一人一実践の取り組み）
- 2 家庭学習の充実
 - ・授業とリンクした家庭学習の取り組み
 - ・教師の家庭学習指導力の向上
- 3 今日的な課題に向けた研修
 - ・特別支援や保健（アレルギーなど）に関する研修

II 成果と課題

- 1 児童の実態に即した授業構想の取り組みについて
 - ・一人一実践の取り組みとして、全担任が、知識及び技能の活用を図る問題解決的な学習を算数科において実践した。指導主事を招聘しての授業研究やブロック交流研究会での授業公開などを通して授業改善を進めることができた。
 - ・授業中の児童の実際の姿やワークシート・学習感想の分析など、子どもたちの事実をもとに授業の振り返りを行った。そのことで話し合いの内容が具体的になり、個々の児童に対する手立ての有効性をきめ細かに検討することができた。また、多くの先生方による児童の見取りを出し合うことにより、児童の実態の理解をより一層深めることができた。
 - ・児童の実態に即して授業を構想することにより、児童にとって「楽しい、できる、分かる、力がついている」授業実践につなげることができた。
 - ・既習内容の可視化（側面黒板、掲示など）やワークシートの工夫など児童の思考の手だてとなる支援が大変有効であった。
 - ・児童の身近にある題材を教材として設定したり、導入時に本時の学習内容に関連する様々な事例を提示したり、児童が取り組みたくなるような学習課題を設定したり、児童の学習意欲を高める方策を探究することができた。
 - ・パワーポイントを使って学習内容の説明をしたり、電子黒板を使って児童の考えを学級全体で共有したり、ICTの有効活用について研究を深めることができた。
 - ・児童一人ひとりの思考を認める学級風土が、学習への意欲化につながった。また、教師による適切な評価、支援により意欲を引き出すことができた。

- ・全国学力学習状況調査や山梨県の学力把握調査などの分析を全職員で共有し、全学年でそれに基づいた取り組み（意図的・計画的な補充的学習の充実など）を進めることができた。
- ・子どもに見通しをもたせたり，教え合いから学んだり，苦手な児童への支援の工夫をより一層研究する必要がある。
- ・「力がつく」という点では，その検証をどう表すのかまで，確認する必要もあった。

2 家庭学習の充実について

- ・ブロック（低・中・高学年）ごとに児童の実態及び発達段階にあわせた家庭学習の充実に取り組んだ。また，校内研で家庭学習についての内容や取り組み方法などの事例の交流を行い，学級担任の家庭学習指導力の向上と児童の意欲の向上につなげることができた。
- ・学力学習状況調査等で課題が見られた基礎・基本に重点をおいて取り組んだ。
- ・山梨市学力向上推進委員会の山梨南中ブロック研究会で共通の取り組みとして確認された「家庭学習チェック表」を本年度途中から導入した。このことにより，保護者の家庭学習への関心や意識が高まり，より一層家庭からの協力をいただくことができた。
- ・家庭学習の充実には，保護者の理解，協力が不可欠である。今後も取り組みを継続し，学習習慣の形成と学習に意欲的に取り組む態度を育ていきたい。
- ・山梨スタンダードの項目にもある「家庭学習と授業の有機的な結びつき」を念頭において家庭学習の取り組みを進めたが，授業→家庭学習→朝学習の効果的なサイクルの確立にはまだ課題がある。

3 今日的な課題に向けた研修について

- ・保健（アレルギーなど）に関する研修では，食物アレルギーについての学習とアレルギーによる事故を想定したロールプレイングを行った。実際にどのように対応したらよいか，研修が進められた。全職員が共通理解することができ，日ごろ曖昧になっている対応を確認しながら考え直す良い機会となった。

Ⅲ 成果物

- 1 算数科における問題解決的な学習の指導案・ワークシート・実践記録など（全学年）
- 2 児童の実態に即した家庭学習の事例（低・中・高学年ブロック）
- 3 家庭学習チェック表（全学年）

（研究主任 原藤 生府）